

滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和5年度 第2回)

○日 時 令和5年10月4日(水)10:00~12:00

○場 所 WEB 会議

○出席委員 河岸委員(部会長)、岡戸委員(副部会長)、後藤委員、北川委員、東委員、築地委員、堤委員

○欠席委員 山岡委員、山委員

○同 席 滋賀県介護福祉士会 澤村理事

○オブザーバー (株)JR 西日本コミュニケーションズ

○議 題

- (1) 令和5年度介護のしごと魅力発信事業について
 - ・令和5年度事業の進捗報告
- (2) 令和6年度の取組について
 - ・次年度の方向性を意見交換
- (3) その他

1. 議題(1) 令和5年度介護のしごと魅力発信事業について

【進捗状況説明】

①しがけあアンバサダー

- ・介護現場の若手職員に募集を募り、しがけあアンバサダーに決まった。介護職員4名、ケアマネジャー2名、訪問介護員(看護師)1名の計7名で、内2名は外国人。今後、Instagramによる発信や、イベントへの出演などにより魅力発信していく。
- ・第1回しがけあアンバサダー会議を本日午後を開催する。アンバサダーの活用内容の説明等の予定である。アンバサダーの意見も聞きながら、最終的な形を作っていければと思っている。主な活動は、アンバサダーにInstagramの運営をしていただくにあたり、研修会を実施する。地元インフルエンサーとのコラボ企画も調整しているところ。
- ・アンバサダーの各施設を訪問し、ポスター撮りを行った。各アンバサダーにインタビューを行い、見た目に印象に残るようなビジュアルとコピーにした。駅貼りポスターとして活用し、しがけあキャラバン(展示キャラバン)においてもパネル化し、掲示予定である。見た目的にも、目を引くビジュアルとなっているので、これで盛り上げていきたい。

②学生プロジェクト

- ・今年度で2年目の企画になる。びわこ学院大学の学生によるブログが始まり、フェスタ企画も検討してもらっているところ。学生プロジェクトの就活 room tugumi の体験レポートは、2事業所にて学生を受け入れた。

③しがけあフェスタ

- ・昨年度のように団体別で取り組むのではなく、一緒にブースやイベントを運営していくイメージ。
- ・月1回定例会議を実施し、ステージのプログラムは決まりつつある。みんなで、「介護の歌」と振り付けを覚え全体に盛り上げる形を作って行きたい。

④プレスリリース

- ・アンバサダーの公開に合わせて、10月下旬予定。県の資料提供と合わせる。

【主な意見】

①しがけあアンバサダー

- ・ケアマネージャーが入っているのが、画期的である。
- ・介護職員の仕事の魅力は若者に伝わりやすいと思うが、ケアマネは就職後に資格を持ってからの話なので、ケアマネの魅力はどう訴えていけばいいか。この活動は若者に訴えていき、色々職種が紹介できて良いと思うが、ケアマネは一步先なので魅力の伝え方に悩んでいる。
- ・ケアマネになる人材が少なく、最近では給料の問題もよく聞く。介護職員の処遇改善が進んだことにより、逆転現象が起きている。ケアマネの給料が下がっているわけではないが、介護職員ほど上がってこないことを課題として、よく聞いている。資格取得してもケアマネ職についてくれない等、難しいところである。
- ・ポスターを各団体に配布し貼り出すことにより、各団体を通じてアピールしていくのも大事である。
- ・この事業の目的は、若者に魅力を発信していきたいというところが、第一の目的、このポスターはいい効果がでるのではないかと。外国人アンバサダーの2名が海外に発信し普及してくれると、海外からも良い人材が来るのではと思う。期待しているので、できれば、SNS を通じて継続して行ってほしい。
- ・アンバサダー7名の持って行き方は考えていただいていると思うが、一番難しいところだと思う。

②しがけあフェスタ

<フェスタ参加団体より>

- ・当団体の人材確保・育成・定着を考える委員会の委員全員を出席とし、運営に関しては、近隣の圏域のスタッフが参加する。理事会では、会員に声を掛けて、来場を促している。盛り上げていきたい。
- ・企画が同じ団体があるので、分科会で運営をどうするか話し合う予定。
- ・介護福祉士の魅力や力を出せればと思っている。力を入れてやっていきたいと思っている。前年度までは委員を中心にしていたが、本年度は、当日に他の理事も協力的に参加して貰い、理事のメンバーで進めていくという流れに変わった。昨年度よりは盛り上がっている印象である。

2. 議題（2）令和6年度の取組について

【取組内容等説明】

①取組内容

- ・アンバサダー7名は、次年度以降も魅力発信の要として活動してもらおう。アンバサダーを活用した取組を、今後取り入れていきたい。
- ・令和6年度も、SNS の発信とイベントの開催を継続。
- ・県の施策として、北部振興を掲げている。北部（高島市・長浜市・米原市）の方で、取組を展開し強化していく。中学校の授業の中で出来ることをいくつかの学校で試行し、その形をベースとし他の市町に広げていくためのモデルケースとするイメージである。

②体制

- ・次年度の介護のしごと魅力発信事業は、委託事業から補助事業へ移行する方向で動いている。介護福祉士会が事務局を持ち、業界全体で進めていくこととし、県は支援するという体制で、自走化していくこととしたい。今までのように高校の福祉教育研究会や県内企業にも関わっていただきたいと思う。
- ・本部会は、次年度も、自走化する介護のしごと魅力発信事業の企画検討・情報共有・進捗管理等で連携しながら、魅力発信全体のことを協議するという形で継続したい。

- ・来年度予算は補助率を含め、検討中である。このプロジェクトは非常に大事だと思っている。どんどん発展し、取組をより充実していきたい部分でもあるので、立場が変わるが、そこはバックアップと支援という形で、県も引き続き、財政面だけでなく色々な関わりをしていきたいという気持ちである。

<介護福祉士会より>

- ・現在は地盤を固めているところである。まだ、しっかりとしたことは決められていない段階。

【主な意見】

①取組内容

- ・当団体では、若手から魅力発信したいと声が上がっていて動きも出てきているので、若手を巻き込むような取組ができたと思う。現場に入っている為、時間が取れない実情もあるが、ターゲットが若者であるので、各施設の若手が参画できるような方向も考えていけたらと思う。
- ・アンバサダーのケアマネジャーには、なぜ今ケアマネをしているのか仕事の魅力を発信してくれたらいいと思う。
- ・当初の目的の“若者にイメージを与えていこう”“若者を増やそう”という目的はブレてほしくない。
- ・当初、滋賀県内を4つの地域分けし、それぞれ違うイベントをしていくような話をしていたと思う。ファッションショーやフェスができれば等々…。会場を分けたり、時期をずらすのは大変になると思うが、方法として良いのかなと思う。
- ・来年から新しい事を始めるというよりも、今まで培ってきたノウハウであったり、ネットワークを活かしながら翌年度以降、発展していくのがベースだと考えている。(アンバサダーや学生プロジェクト)この様な会議で、アンバサダーの若い目線を取り入れながら、一緒になって作り上げていく事が大事になってくると思う。プロジェクトはプロジェクト、アンバサダーはアンバサダーではなく、一つになって取り組んでいくことがベース作りで大事であると考えている。
- ・アンバサダーが末永く活動して魅力発信に活かせるよう、滋賀県のアイドルグループみたいな話題性を持たせて、1年だけで終わらないようにしていけないといけな。アンバサダーの所属する法人内事業所の暖かい目で送り出そうという気持ちも大事になってくる。所属する事業所に理解が得られるような活動に繋がられると良いと思う。

②体制

- ・介護福祉士会は職能団体なので、担ってもらえることはバランス的にも良いと思う。
- ・この部会（県）がどのような役目を演じるのか、少し不明瞭だと思う。
- ・介護業界は色々な団体が多く分かれすぎていることが難しい部分である。それぞれに特徴をもっている団体をまとめ、良い部分を出していくようなことを、この魅力発信部会でやってほしいと思う。
- ・主体が介護福祉士会に移るのであれば、障害・保育に幅を広げる方法もあると思う。一緒に考えていける場として、この部会があればいいと思う。
- ・業界全体で作り上げることが大事である。協力をお願いしたい。

③協賛

- ・自走化に向けて、協賛やバックアップ支援いただける企業は必要だと思う。
- ・翌年度以降、企業と連携することで協賛金を募るのか、今回のように場所の提供のみなのか、どのような目的を持って企業との連携をしていきたいのかを設定するところが必要になってくるかと感

じている。

- ・まず介護業界での確保を考え、他業界からプラスアルファの部分を担ってもらうのが順序だろう。
- ・協賛については、協力的になってもらえるようやり方が大事だと思う。介護福祉士会が中心となり、各団体でどのような方法で進めていくか、準備段階を頑張った中で来年度を迎えた方がいい。どうしていくのかを話し合っ決めて行かないといけない。
- ・協賛で、プラスアルファの部分を担って貰うのか、取組全体のお金を集めていくのかというところも大事だと思っている。企業にとってのうまみやメリットがわからないのでお金を出して貰うのは難しい。来年度、協賛をお願いしていくのであれば、今年度、企業メリットを少しでも見せられる何かを作っていくか、下半期の間、何ができるのか考えないといけない。
- ・協賛金等が得られれば、その部分が人を集める為のビンゴゲーム大会の景品であったり、プラスアルファの部分に使えるといい。
- ・民間企業とタイアップして、介護の事業をCSR活動の中に入れてもらえればと思う。介護補助で、Wワークの1つの選択として選んで貰える中で、ともにやって行こうと入り込めればいいのかと思う。

④魅力発信事業

- ・広報と宣伝を一緒に考えてはいけない。今の取組は広報と認識する方もいると思うが、これは広告だと思う。新しい人材を獲得するための、戦略の一つだと思う。広告である以上、新しい人材が入って来るといった結果が伴わないといけない。広報の場合は曖昧なもので、親しみが増す、評判が高くなるという事が結果となる。広告の場合は、人が集まってくることが大事である。結果の把握を意識的に押さえていく事が必要という気がしている。
- ・県は来年度以降、広報をきっちりしていないといけない。県民の中で介護の問題、介護現場で働く人達の生き方・喜び・苦しみ等々を県民に関心をもって貰えるような状況を作る。介護業界の皆様が、どんなことに悩み、取り組んでいるのかを上手く伝える広報をしなければいけないと思う。介護問題に関する広報は、介護業界のことではなく、行政ないし政治の仕事だと思う。そこを、しっかり認識して、例えばこの3年間の取組と来年度からのことを、オーソドックスなやり方だが県庁でプレスリリースして、どれだけの記者が食いつくのか知らないが、やっておかないといけない作業であると思う。SNSを活用した広報についても試みていただきたいと思う。
- ・県からの発信は、「事業者の皆様が中心になって頑張っています。県は一緒にしっかりと頑張ります。」という、みんなで進めていく形がみえるよう発信していきたいと思っている。是非ともご協力をお願いしたい。

3. その他

①「おおつ介護フェスタ」の開催

- ・11月18日に大津京ランチで開催する。
- ・大津市の大津市介護人材確保連携会議の取組で、今年度初めて実施。主な内容は、県事業と同じで、介護に興味がない方々に介護の魅力発信する目的のイベントで大津市と実施するかたちとなった。大津市職員中心に提案した中で、各団体が協力して開催する流れになっている。
- ・開催内容は、ステージイベント（介護のクイズ、介護のトークショー）、地域の太古の演奏・ダンスなど。広場では、協賛したい各事業所が、テントでブースを出店する。出店内容は、基本何をしてもよく、利用者の作品を配布や、事業所アピールをしてもよい。企業もブースを出店しており、販売もOKである。制限としては、火気厳禁やフリーマーケット的にはしない等ある。ブースの出店の際、事業所は出店無料だが、企業は有料で出店する形。また、広告媒体に掲載する際の協賛金を

募った。

②「介護の魅力発信サミット」参加の報告

- ・広島県の取組「カイゴのガッコウ」は、小中学校等に対して、しがけあアンバサダー的な方（若手職員）が、出前講座をするという取組をされていて、若い職員が企画もするので内容が面白かった。詳しい内容は後日送る資料で見たい。
- ・民間企業の魅力発信についても報告があり、雑誌 an・an、popeye 等で介護の記事を組むとのこと。若い方向けの雑誌で取り上げられると反響があるかもしれない。
- ・滋賀県の報告に関しては、いくつかの他府県から効果測定を参考にしたいと声をかけられた。

以上